

(国語科)

## 「一人一人の読解力を高める国語科指導をめざして」

大阪市立梅南津守小学校 研究部

### 1. 研究主題設定の理由

本校では、教育目標として「創造的で心豊かな子どもを育てる。」を設定し、「自ら学ぶ子」「助け合い思いやりのある子」「健康で活力のある子」をめざす子ども像として、教育活動を展開している。

本校は、4年前に梅南小学校と津守小学校が統合した。その際、学習の基盤となる国語科の研究に取り組むことにした。最初の3年間は「論理的思考力・論理的表現力を育くむ言語力の充実」という研究主題で、国語科の基本的な学習過程と指導方法について研究を進め、教師の指導力向上をめざした。本年度は研究主題を「一人一人の読解力を高める国語科指導をめざして」と改め、研究を進めることにした。

### 2. 研究の趣旨

児童の実態として、全国学力・学習状況調査の結果では、複数の資料を関連して読み取ったり、読み取ったことをもとに自分の意見を書いたりする活用の力に課題が見られた。また、大阪市小学校学力経年調査においても他の観点に比べて「書く能力」「読む能力」の正答率が低く、内容別の項目では「説明文の読み取り」に課題が見られた。そこで本校では、「読解力」を読み取ったことを理解するだけでなく、読み取った内容を活用したり、よく考え批評したりする力と定義し、内容を読むことに加え、互いの考えを伝え合うために書くことや話すこと、またⅢ次での活用の際の表現することも含まれると考えた。その中でも「読む力」と「伝え合う力」に焦点を絞り、「各学年の発達段階に応じ、確かな『読む力』と『伝え合う力』を身につけることで、『読解力』を高めることができる」という研究仮説をたて実践することにした。

### 3. 研究の概要

研究主題にせまるため、研究の視点を以下のように設定した。

①読む力をつけるための工夫

②伝え合う力をつけるための工夫

また、そのために以下の点を大切に研究を進めることにした。

#### (1) 授業実践

①課題設定の工夫

②思考場面の工夫

○文章を読み取る際には、文章構成や、文頭の言葉、順序を表す言葉、資料や写真などの表現の工夫に着目させる。

○読み取った内容を自分の考えを持つことにつなげるために、一人学びの時間を確保し、ノートや思考ツールやワークシートなどを工夫する。

③伝え合う場の工夫

○話し合い活動の時間を1時間の中で必ず設け、学習形態を工夫する。

○基本的な話型だけでなく、思考を促す話型を活用する。

④振り返りの活動

⑤授業評価（指導者）

- 自己評価シート等で自分の授業を振り返る。
- アドバイスシートや討議会等で客観的に振り返る。

（２）言語環境の整備

①読書の啓発

読書タイム・読み聞かせ・お話会・アニメーション・読書の木・クイズ大会  
読書コーナー（２階・３階にソファと本棚を設置）

① ぐんぐんタイム

プリント学習・タブレット（ミライシード）

② 漢字検定

③ 学習スペース

新聞コーナーの設置

階段、廊下にことわざや四字熟語、英語を掲示

④ 音読・視写の継続指導

天声子ども語を週２回（高学年）意味調べ・タイトル付け、要約、感想

⑤ 朝会での校長先生の話のを要約

⑥ 宿題の定着

SGT（宿題頑張ろうタイム）を放課後に設定

４． 研究の成果と今後の課題

（１） 研究の成果

- 読みの課題設定を工夫したことで、より主体的に学習に向き合う姿勢が見られた。  
Ⅲ次の活動を意識させることで、目的意識を持って取り組むことができた。
- 読みの指導の際、表現の工夫に着目することで、苦手意識のある児童にとって読み取りの糸口を見つけることができた。表現の工夫を他の教材を読み取る時や自分の表現にも活用することができた。
- 自分の考えをしっかりと書くことで、伝え合う場において自信を持って活動することができた。また、相手に理解してもらうために根拠も書くことができるようになった。
- 話し合い活動を継続することで、話すことに抵抗なく活動することができるようになった。また、友だちの意見を聞いて自分の考えが変わったと答える児童が多かった。
- 学年に応じた話型を教えることで、わかりやすく相手に伝えることができるようになった。また、委員会活動など普段から原稿を見ずに発言することができるようになった。

（２） 今後の課題

- 読解力の向上に関しては、個人差が大きい。一人学びがしやすいワークシートの工夫など個に応じた指導が大切である。
- 読書の啓発を継続し、読書が好きな児童を増やす。
- 家庭との連携を図り、家庭学習の定着を進める。
- 対話的で深い学びを実現するための支援を工夫する。